

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	琉球大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	リュウキュウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	観光産業科学部
	担当教職員名・役職	橋本俊作 教授
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	55
受入企業等数	40	
受入企業等名	Fuji Ramen (バリ島)、Temasek International College(ミャンマー)、カオラック・ラグーナ・リゾート(タイ)、沖縄県庁、沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄産業振興公社、横山商店、沖縄ファミリーマート、トランス・コスモス、琉球銀行、沖縄銀行、沖縄テレビ放送、浦添市観光協会、沖縄教育出版、シーエー・アドバンス、三井住友海上火災保険、あいおいニッセイ同和損害保険、沖縄ツアーリスト、他	
インターンシップの分類	2.有給インターンシップ 3.海外インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	3.4年次生を主対象として、最低2週間以上のインターンシップ(就労型:海外・国内、PBL、経営者意識醸成等)を実施。主体性醸成の観点から、インターンシップ先は基本、自主開拓としている。インターンシップ先自主開拓は学生の負担が大きいが、受講学生は、2年次必修科目:キャリア開発演習(内容:グループで自主的に企業アプローチ、企業が求める力を探索、成果発表会開催)で体験済のため、円滑に進んでいる。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次(1年次、2年次、4年次)
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ付与単位:2、内容:オリエンテーション(インターンシップの理解)、事前学習4コマ(インターンシップ先探索支援、目的・意義、マナー、履歴書作成、最近の就職事情等)、実習日報、最終レポートの提出、発表会。評価は上記の総合。出席、提出は必須、欠けた場合は単位は付与せず。受講学生には、インターンシップをグループでの議論、活動を通して進めることを促すため、チームワークについても学べる。	
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	

	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
要素③	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	上記の内容に沿っている
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	上記の内容に沿っている
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	上記内容に沿っている
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	CAVTを使用
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	2週間(休みを除く10日間)
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	10日間に満たない場合、複数企業でのインターンシップを合算し10日間とする。
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	最低2週間(実質10日間)以上の実習を行うことを義務づけている(シラバス銘記)。但し、PBL、経営者意識醸成等、就労型以外については、連続ではないが、4~6ヶ月の期間に亘る。(例:沖縄ファミリーマート提供、商品開発PBL:6月~11月)。2週間に満たない期間のインターンシップに従事した場合、複数を組み合わせ、期間を満たすことを指導している。指定期間を満たさなかった場合、単位は付与しない。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ企業等に学生の評価はデイリー、及びトータルで依頼している。プログラムの協働開発は行っていないが、企業等に対しては学生の自発性を喚起するため、できるだけ手をかけない、過度な声かけをしないう要請している。学生に対しては「企業にとっては、きみたちは業務の邪魔になる存在、だから自分から働きかけるように」と伝えている。「自ら学び、考え、行動し、発信する人材になる」ためにどうすればよいかテーマである。

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://tiglon.jim.u-ryukyu.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/
問い合わせ先	大学等名	琉球大学 観光産業科学部 産業経営学科
	担当部署名	観光産業科学部 産業経営学科
	担当者役職名	学科長 / 教授
	担当者氏名	橋本俊作
	電話番号	098-895-8245
	メールアドレス	shunh@tm.u-ryukyu.ac.jp